

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 7 月 23 日現在

機関番号：23401

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2010～2013

課題番号：22255011

研究課題名(和文) アフリカ・モラル・エコノミーを基調とした農村発展に関する比較研究

研究課題名(英文) Comparative Studies on Rural Development Based on African Moral Economy

研究代表者

杉村 和彦 (SUGIMURA, Kazuhiko)

福井県立大学・学術教養センター・教授

研究者番号：40211982

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 34,700,000円、(間接経費) 10,410,000円

研究成果の概要(和文)：今日、アフリカ農村にも内部格差があり、南南南問題という状況を作り出している。その「停滞」の中心に位置する東アフリカ農牧民社会にも現金の世界は深く展開しているが、同時に、そのような現金経済を内部化しながら、「分与の経済」「再生産」を強調するアフリカ・モラル・エコノミーは、再生産・再創造されるつつある。「人と人」の関係に資本を投下するアフリカ・モラル・エコノミーを基調とした、生存維持を志向する農村発展の可能性を地域間比較の視角から学際的・総合的に明らかにした。

研究成果の概要(英文)：Today there are internal disparities inside Rural Africa, which are the cause of the so-called South-South-South Problem. Today, even in the stagnant agropastoralist societies of East Africa we can see widespread use of money, but at the same time there exists a moral economy focused on a sharing economy and reproduction and the African moral economy invests its capital on international relationship. Our multidisciplinary general research project used a regional comparison perspective to elucidate the potential for development in such subsistence-minded rural communities.

研究分野：農学B

科研費の分科・細目：農業経済学

キーワード：アフリカ・モラル・エコノミー 農村発展 情の経済 分与の経済 生存維持志向 地域間比較 地域間格差 農牧民研究

1. 研究開始当初の背景

(1)わが国の農業経済学の視角からのアフリカ農村研究は、専ら市場との関係で農民を捉え、サブシステム経済への関心は低い状況にあったが、その中でその重要性に着目してきたのは、坂本、米山、祖田、末原、池上、杉村らの京都大学農学部を中心としたグループである。一方、生態人類学研究としては、京都大学アジア・アフリカ研究科の掛谷を中心としたグループが、サブシステムを生きるアフリカ農民の「平等主義」的特質をめぐって実証研究を重ねてきた。

(2)こうした流れの中で申請者は、「伝統農業・農村」と世界システムの接合の様態を捉えようとする農業経済学の視点に立ちながらも生態人類学の視点を生かし、アフリカ農村のサブシステムの特質の解明に向けて研究プロジェクト(海外学術研究(A)「赤道アフリカ農村のモラル・エコノミーの特質と変容に関する比較研究」2003-2006年)を立ち上げ、モラル・エコノミーのアフリカ農村における固有性を明らかにしてきた。

(3)本研究では、従来の開発論からは、他の途上国地域と比較して「遅れた」ものとして切り捨てられてきたアフリカ農村の生活規範を、上記のような新しい「開発」の指針から読み直すことによって、途上国の近代化のゆがみを超える、あるべき発展の形に向けた潜在的な可能性として捉え直すことが、アフリカ農村の農業経済研究においても強く要請されていた。

2. 研究の目的

(1)本研究は、このアフリカのモラル・エコノミー(生活規範に支えられた広義の経済)に焦点を当て、それを生存基盤(サブシステム)や内発性を重視する広義の社会開発の立場から捉えなおすことによって、アフリカ・モラル・エコノミーを基調とした農村発展の可能性を地域間比較の視角から学際的・総合的に検討した。またその知見を統合することにより、社会的連帯と社会的平等を重視するアフリカ型農村開発モデルを構築し、社会開発の新たな視点を切り拓くこと。

(2)本研究は、前回の共同研究で焦点化されてきた、「消費の共同性」、「分与の経済」、「人間の再生産」、「牧畜的狩猟採集的要素を含む農業」などのアフリカ・モラル・エコノミーの特質に着目し、それを基調とする農村発展の可能性を、従前その研究の中心に置かれてきたタンザニア農村を事例として、多面的・学際的に明らかにすること。

3. 研究の方法

(1)本研究は、平成22年度から25年度までの4ヶ年間に亘って実施した。平成22年度は中心的な調査の対象地域であるタンザニア国で、「アフリカ・モラル・エコノミーを基調とした農村発展の可能性の検討」という課題に対応する研究対象を選択し、ダルエス

サラーム大学・ソコイネ農業大学の協力メンバーとともに学際的研究チームを立ち上げた。研究初年度である平成22年は、従前の各自の研究成果を踏まえて、共同研究の成果をより効果的に取り出すために、本研究の中心の対象国であるタンザニアにおいて、上記の研究課題に対応する調査拠点を、開発状況(援助の有無や形態)や生業構造(農業の集約性や保有する家畜の多寡)の差異に基づいて設けた。

(2)平成23年度はタンザニアの各拠点での長期の調査を継続するとともに、アフリカ内部の地域間比較、生業間比較のため、ボツワナ国、カメルーン国、エチオピア国にもメンバーを派遣し、目的の項で述べた課題に関するデータの蓄積に努めた。

(3)平成24年度はタンザニアの各拠点での短期の調査を継続するとともに、アフリカ諸国との地域比較のために、東南アジアのタイにもメンバーを派遣し、地域比較の視角から目的の項で述べた課題に関するデータの蓄積に努める。同時に、アフリカ農村との地域間比較として、経済開発先進地である東南アジアのタイ農村を取り上げ、経済開発に過度に対応する途上国農村の状況と問題をモラル・エコノミーとの連関で明らかにし、アフリカ農村との比較のための家計調査を実施した。

(4)平成25年度は、以上の知見を統合し、モラル・エコノミーの視点から生存基盤(サブシステム)を軸に、社会連帯と社会平等を重視するアフリカ型農村発展モデルの構築を行った。

4. 研究成果

(1)本研究の中心の対象国であるタンザニアにおいて、ゴゴ農牧民社会を対象に、南南問題の核ともいえる、農業近代化の停滞した地域で、その停滞の様態を次のような視点から明らかにした。

南南問題の核としてのアフリカ農村内部にも地域間格差が拡がり、南南問題とでもいべき構造的格差問題が展開しており、ゴゴ農牧民はその典型的な存在で、緑の革命などの近代農業化が著しく遅れていること。しかしその一方で、現金経済・商品化はこのような地域にも深く浸透しており、ハイデン氏など軸としたかつてのアフリカ小農論争とは大きく異なっているが、同時に現金を内部化した上での「生存維持」を一義的に重視する生活の様態があること。

このような状況には現金の内部化を示すものとしてのキバルア(日雇いの賃労働)の広範な展開があり、これまでの農業の共同労働もこうしたキバルア使用に代替しているが、同時に、このような現象には地域の希少な財としての現金の「共有化」といべき互酬関係があり、貧者が生活に困ったとき、富者に仕事を要求するような生存のセーフティネットとしての側面があることが明

らかとなった。

東アフリカの農牧民は、今日においても「農」よりも、「牧」に高い経済価値を置くような行動様式が展開するとともに、その住民の中に多数の大型家畜の牛を有する富者として住民の存在があり、住民の財産に大きな階層差を有している。

ゴゴ農牧民は、大型家畜のいないアフリカの農耕社会と比較すると著しい階層差を含みこんだ社会ともいえる。その差異は今日でも、その基底においては、「農」の内部の階層差としてよりも、「牧」の内部差としてある。この「牧」は家畜の保有という点から見れば、村の中の20-30パーセントの層に限られるが、無家畜保有者層も日常的に飼育や放牧作業にかかわり、「牧」のセクターからの生活の糧を引き出している。

ゴゴ農牧民の調査研究を通して浮かび上がってきたことは、すでに述べた「農」と「牧」の併存システムが、天候不順の中でNjaa(飢饉、食糧不足)という困難を抱えながら生きるドドマ周辺の住民にとって、中心的な生存戦略として不可欠な重要性を持つことである。このNjaaに対する現代的対応としては、グローバル化の中での生活の理念化が、「食糧は生産できなくとも現金があれば買える」という状況を作り、飢饉に至るような最悪の状況を回避している。一方で、この購入の元手となる現金を地域社会の中の弱者・貧者である人にも獲得できるようにしているものが、互修的な特色を持つ広範なキバルア現象や今日でも展開する一夫多妻などを通じた扶養システムである。

(2)プロジェクトの中では、「アフリカ・モラル・エコノミー」の理論的展開と深化も意図した。その一つの試みとして、アフリカ・モラル・エコノミーの源流でもあるアフリカ小農論争を、全編翻訳するとともに、その論点について国内のアフリカ・モラル・エコノミー研究会を通して検討した。深化を行った。

(3)農牧的世界の暮らしの質をどのように図るのかについても議論を重ねた。このような南の世界の生活状況をこれまでのような西欧起源の経済指標ではなく、その地域社会の実態に応じたものとして再考する必要があることが国内外で提起されており、生存基盤を重視する「アフリカ・モラル・エコノミーを基調とする農村発展」の議論とその重視すべき指数が考察された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計20件)

阪本公美子 2014. 『『周辺』から再考する内発的発展 タンザニア南東部の事例から』、大林稔・西川潤・阪本公美子(編) 『新生アフリカの内発的発展 住民自立

と支援』、昭和堂、pp.165-182. 査読無
Sakamoto, Kumiko 2014. "Comparative Analysis of Women in Female-Headed Households and Male-Headed Households: The case of RZ Village in Southeast Tanzania", Journal of the Faculty of International Studies (Utsunomiya University) no.37, pp.45-63. 査読有

Sugiyama, Yuko 2014. "Agrarian Innovation Process and Moral Economy: Embedding Money into the Local Sharing System, Opening Accessibility to Resources", (In) Kazuhiko Sugimura (ed.), Rural Development and Moral Economy in Globalizing Africa: From Comparative Perspectives (Proceedings of 6th International Conference on African Moral Economy, 26-28 August 2013 at University of Dodoma and VETA Hotel, Dodoma), Fukui: Fukui Prefectural University, 査読無.

津村文彦 2014. 『『足るを知る経済』と『タクシノミクス』のあいだ 家計簿調査からみる東北タイの農村経済』、『福井県立大学論集』第42号、pp.27-44. 査読有

Tsumura, Fumihiko 2014. "Life as a Peasant and as a Laborer: Change and Continuity of Village Economies in Rural Thailand", (In) Kazuhiko Sugimura (ed.), Rural Development and Moral Economy in Globalizing Africa: From Comparative Perspectives (Proceedings of 6th International Conference on African Moral Economy, 26-28 August 2013 at University of Dodoma and VETA Hotel, Dodoma), Fukui: Fukui Prefectural University, 査読無

Tsuruta, Tadasu 2014. "Capitalism and Peasantry Debates in Comparative Perspective", (In) Kazuhiko Sugimura (ed.), Rural Development and Moral Economy in Globalizing Africa: From Comparative Perspectives (Proceedings of 6th International Conference on African Moral Economy, 26-28 August 2013 at University of Dodoma and VETA Hotel, Dodoma), Fukui: Fukui Prefectural University, 査読無.

Tsuruta, Tadasu 2014. "Introductory Presentation: A Changing Process of Agro-pastoralism in the Gogo Society, Central Tanzania", (In) Kazuhiko Sugimura (ed.), Rural Development and Moral Economy in Globalizing Africa: From Comparative Perspectives (Proceedings of 6th International Conference on African Moral Economy, 26-28 August 2013 at University of

Dodoma and VETA Hotel, Dodoma), Fukui: Fukui Prefectural University, 査読無.

杉村和彦 2013. 「アフリカ・モラル・エコノミー研究と共同体論」, 杉村和彦(編) 『アフリカ・モラル・エコノミーの視圏: その源流・変容・未来に関する論点の総合化のための基礎的研究』(福井県立大学特別研究費 研究報告書) 福井県立大学, pp.3-29. 査読無

杉村和彦 2013. 「論争の中でのハイデンの『小農的生産様式』をめぐって」, 杉村和彦(編) 『アフリカ・モラル・エコノミーの視圏: その源流・変容・未来に関する論点の総合化のための基礎的研究』(福井県立大学特別研究費 研究報告書) 福井県立大学, pp.119-133. 査読無

杉山祐子 2013. 「アフリカ小農論争を読み直す 現金経済の浸透と技術革新の視点から」, 杉村和彦(編) 『アフリカ・モラル・エコノミーの視圏: その源流・変容・未来に関する論点の総合化のための基礎的研究』(福井県立大学特別研究費 研究報告書) 福井県立大学, pp.135-140. 査読無

津村文彦 2013. 「モラルエコノミーと「足るを知る経済」のあいだ 1990年代以降のタイの政治経済動向を背景にして」, 杉村和彦(編) 『アフリカ・モラル・エコノミーの視圏: その源流・変容・未来に関する論点の総合化のための基礎的研究』(福井県立大学特別研究費 研究報告書) 福井県立大学, pp.73-86. 査読無

鶴田格 2013. 「日本資本主義論争からみたアフリカ小農論争」, 杉村和彦(編) 『アフリカ・モラル・エコノミーの視圏: その源流・変容・未来に関する論点の総合化のための基礎的研究』(福井県立大学特別研究費 研究報告書) 福井県立大学, pp.141-152. 査読無

Sugiyama, Yuko 2013. "The Small Village of 'We, the Bemba': The Reference Phase that Connects the Daily Life Practice in a Residential Group to the Chiefdom", (In) Kaori Kawai (ed.) Groups, Kyoto: Kyoto University Press, pp.239-260. 査読有

Sugiyama, Yuko 2013. "Local Innovation, Communal Resource Management and a Modern Aspect of 'Moral Economy'", (In) Kazuhiko Sugimura (ed.), Endogenous Development and Moral Economy in Agro-pastoral Communities in Central Tanzania (Proceedings of the 5th International Conference on African Moral Economy, 29-31 August 2012 at 56 Hotel, Dodoma), Fukui: Fukui Prefectural University, pp.72-76. 査読無

Tsuruta, Tadasu 2013. "Changing Process of the Agro-pastoral Economy

of the Iraqw in Northern Tanzania", Journal of Swahili and African Studies (Graduate School of Language and Culture, Osaka University) no.24, pp.106-120. 査読無

津村文彦 2012. 「東北タイの家畜飼養にみるモラル・エコノミーの変容 アフリカとの比較の参照点として」 『農林業問題研究』 第48巻第2号, pp.320-325. 査読有

[学会発表](計18件)

Ikegami, Koichi "Perspective of Endogenous Development from Japanese Experiences", in the 6th International Conference on African Moral Economy: Rural Development and Moral Economy in Globalizing Africa: From Comparative Perspectives, at University of Dodoma, Dodoma, Tanzania, 26-28 August 2013.

Sugimura, Kazuhiko "On the Significance of the Study on Endogenous Development of Agro-pastoralists as Part of the AMER Project", in the 6th International Conference on African Moral Economy: Rural Development and Moral Economy in Globalizing Africa: From Comparative Perspectives, at VETA Hotel, Dodoma, Tanzania, 27 August 2013.

Sugiyama, Yuko "Embedding/ Re-embedding Cash into the Local Community: Cash Economy as a Default Condition, Livelihood Strategies and Moral Economy in Rural Africa", in the 6th International Conference on African Moral Economy: Rural Development and Moral Economy in Globalizing Africa: From Comparative Perspectives, at VETA Hotel, Dodoma, Tanzania, 27 August 2013.

Sugiyama, Yuko "'Wanna learn Gogo Music? Just do it': Modern Sound Practices in the Gogo Villages, Tanzania" (Symposium: Weaving Non-European Sound Practices into Music Education in Japan), in the 44th Annual Conference of Japan Music Education Society, at Hirosaki University, Hirosaki, Japan, 12 October 2013.

Tsumura, Fumihiko "Life as a Peasant and as a Laborer: Change and Continuity of Village Economies in Rural Thailand", in the 6th International Conference on African Moral Economy: Rural Development and Moral Economy in Globalizing Africa: From Comparative Perspectives, at VETA Hotel, Dodoma, Tanzania, 28 August 2013.

Tsuruta, Tadasu "Capitalism and Peasantry Debates in Comparative Perspective", in the 6th International Conference on African Moral Economy: Rural Development and Moral Economy in Globalizing Africa: From Comparative

Perspectives, at Dodoma University, Dodoma, Tanzania, 26 August 2013.

Tsuruta, Tadasu "A Changing Process of Agro-pastoralism in the Gogo Society, Central Tanzania", in the 6th International Conference on African Moral Economy: Rural Development and Moral Economy in Globalizing Africa: From Comparative Perspectives, at VETA Hotel, Dodoma, Tanzania, 27 August 2013.

津村文彦「家畜飼養におけるモラル・エコノミーの地域間比較：アフリカと東南アジアのあいだ」(セッション「アフリカ小農問題とモラル・エコノミー：地域間比較の視点から」) 第61回地域農林経済学会大会、於・愛媛大学、2011年10月22日。

Tsumura, Fumihiko "Moral Economy and Livestock Raising in Southeast Asia", in African Moral Economy Research Project's Workshop on Rural Development Policy and Agro-pastoralism in East Africa, Dodoma University, Dodoma, Tanzania, 24 August 2011.

〔図書〕(計6件)

Sugimura, Kazuhiko (ed.) 2014. Rural Development and Moral Economy in Globalizing Africa: From Comparative Perspectives (Proceedings of 6th International Conference on African Moral Economy, 26-28 August 2013 at University of Dodoma and VETA Hotel, Dodoma), Fukui: Fukui Prefectural University. pp.1-287.

池上甲一 2013. 『農の福祉力 アグロ・メディコ・ポリスの挑戦』農山漁村文化協会、pp.1-249.

杉村和彦 (編) 2013. 『アフリカ・モラル・エコノミーの視圏：その源流・変容・未来に関する論点の総合化のための基礎的研究』(福井県立大学特別研究費 研究報告書) 福井県立大学、pp.1-199.

Sugimura, Kazuhiko (ed.) 2013. Endogenous Development and Moral Economy in Agro-pastoral Communities in Central Tanzania (Proceedings of the 5th International Conference on African Moral Economy, 29-31 August 2012 at 56 Hotel, Dodoma), Fukui: Fukui Prefectural University, pp.1-.99

Sugimura, Kazuhiko, Davis Mwamfupe and Tadasu Tsuruta (eds.) 2012. Rural Development Policy and Agro-pastoralism in East Africa, Fukui: Fukui Prefectural University, pp.1-204.

杉村和彦 (編) 2012. 『アフリカ・モラル・エコノミーを基調とした農村発展に関する比較研究(平成22~25年度科学研究費基盤研究(A)研究成果中間報告書)』, pp.1-271.

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

杉村 和彦 (Sugimura, Kazuhiko)
福井県立大学・学術教養センター・教授
研究者番号：40211982

(2) 研究分担者

嶋田 義仁 (SHIMADA, Yoshihito)
名古屋大学・文学研究科・教授
研究者番号：20170954

末原 達郎 (SUEHARA, Tatsuro)
京都大学・農学研究科・教授
研究者番号：00179102

池上 甲一 (IKEGAMI, Koichi)
近畿大学・農学部・教授
研究者番号：90176082

杉山 祐子 (SUGIYAMA, Yuko)
弘前大学・人文学部・教授
研究者番号：30196779

池谷 和信 (IKEYA, Kazunobu)
国立民族学博物館・民族文化研究部・教授
研究者番号：10211723

松田 凡 (MATSUDA, Hiroshi)
京都文教大学・総合社会学部・教授
研究者番号：90288689

阪本 公美子 (SAKAMOTO, Kumiko)
宇都宮大学・国際学部・准教授
研究者番号：60333134

鶴田 格 (TSURUTA, Tadasu)
近畿大学・農学部・准教授
研究者番号：60340767

津村 文彦 (TSUMURA, Fumihiko)
福井県立大学・学術教養センター・准教授
研究者番号：40363882